

令和2年度 “ふじのくに”^{しみん}士民協働 施策レビュー 改善提案への対応状況

1 基本情報

議論した施策	新たな成長産業の育成		
実施日/班名	10月11日(土)第5班	担当部局名	経済産業部 産業イノベーション推進課 新産業集積課
目標	地域企業の成長産業分野への参入を促進し、経済変動に強い産業構造を構築します。		

2 施策推進の視点・主な取組み

 **視点1 デジタル実装の推進による「命を守る産業」の基盤強化**

- ① デジタル実装の推進による「命を守る産業」の基盤強化

 **視点2 医療・健康産業等の先端産業の集積**

- ② 医療・健康産業等の先端産業の集積

3 現状・課題

現状・課題1

- 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、テレワークやWEB会議が普及するなど、デジタル化の潮流は、これまで以上に加速化することが予想されますが、ICT人材は、国レベルで不足しています。
- ICT企業の多くは、首都圏に集積しているため、本県では、必要なICT人材の確保が課題となっています。
- 本県は、製造業中心の産業構造ですが、ものづくりとデジタルを融合することにより、新たなイノベーションの創出が期待されます。

現状・課題2

- 本県の医薬品・医療機器合計生産金額は、10年連続全国第1位で日本のトップであるが、新型コロナウイルス感染症により、医療用防護具等の不足等の課題が顕在化したため、医療機器産業等の更なる基盤強化を進める必要があります。

4 コーディネーター取りまとめコメント (コーディネーターが議論を総括して取りまとめ)

ICT人材の確保育成が重要な課題であり、大学と企業、企業間での人材マッチングや、小学生からICT教育の導入などに取り組むべきである。女性のライフスタイルとICT産業が合致しており、女性の職業としての魅力を伝えることにより人材が確保できるのではないかと。

また、静岡県ならではの産業を更に伸ばすため、医療産業とITのマッチングなど、医療産業を静岡の基幹産業として重点的に育成するほか、県内市町と連携して産業振興を図る必要がある。

なお、全ての施策について、県民にしっかりとPRし、産業基盤がしっかりとしていることを県民、そして内外に発信していくことが重要である。

5 施策の改善提案とその反映状況

- 地域が持つ特色やノウハウを活用し、本県ならではの新たな産業の育成や、付加価値化に取り組むとともに、先端技術を有する企業の誘致や他産業とのマッチングを推進する必要がある。

本県経済が持続的に発展していくため、本県の強みを活かし、ファルマバレープロジェクト、フーズ・ヘルスケアプロジェクト、フォトンバレープロジェクトの推進をはじめ、次世代自動車やロボット、CNF、航空宇宙分野など、成長が期待される産業分野への地域企業の参入支援や、産学官連携による製品化・事業化の推進に取り組んでいる。

各プロジェクトにおいては、中核支援機関を中心に産学官金の連携のもと、ネットワークを広げており、各コーディネータが企業ニーズに応じて他分野の技術の活用など、プロジェクト間の連携による相乗効果を図っている。

引き続き、AOI、MaOI、ChaOI などを含め、次世代産業の創出に取り組むプロジェクト間の連携を強化し、異分野からの参入や、幅広い知見や技術の結集によるオープンイノベーションを推進していく。

また、首都圏等スタートアップ企業と県内企業との協業を促す商談会「TECH BEAT Shizuoka」について、2020年度は7月の全体版に加え、11月に医療・健康分野、2月には農林業分野に特化した分野別の TECH BEAT Shizuoka を開催するなど、本県産業の特色に合わせた取組を進めており、2021年度も、引き続き全体版及び分野別の TECH BEAT Shizuoka の開催により、県内企業とのマッチングを促進していく。

さらに、先端技術を有する企業の県内誘致についても、県東京事務所や県内市町と連携し、首都圏等のICT関連企業の誘致活動の更なる強化を図っていく。

<2021年度新規取組>

ふじのくにICT人材育成事業（拡充）

- 学校教育と連携して、小学生のころから、パソコンに触れる機会を増やすなど、県内におけるICT人材の確保・育成を強化するとともに、有能なICT人材を他県へ流出させない、他県から呼び込むような取組が必要である。

本県産業の未来を担う次世代のICT人材を育成するため、小中高校生を対象とした「ジュニアプログラミングコンテスト in 静岡」を教育委員会等と連携して開催している。

2020年度は、コンテスト入賞者等を対象に、より高度なスキル修得の場となる「ジュニアプログラミングキャンプ in 静岡」を新たに開催するなど、取組の強化を図っている。

2021年度は、こうした取組を継続するとともに、新たにコンテストの参加者等のネットワークを形成するなど、将来、県内企業での活躍が期待されるハイスキルな次世代人材の確保・育成を行っていく。

<2021年度新規取組>

ふじのくにICT人材育成事業（拡充）

- SNS、動画配信サイトなど多様なツールの活用により、就職を控える学生や静岡県民に対して、新たな産業分野の取組や本県産業の優位性を積極的に情報発信することが求められる。

本県では、首都圏に在住する本県出身者のU Iターンを推進する「30歳になったら静岡県！」応援事業、高校等の卒業後に県外に転出する若者とふるさと静岡とのつながりを維持する「ふじのくにパスポート」事業において、SNSやHPを活用し、本県の魅力的な情報を継続的に発信している。

2020年度より、新たに、本県の地域経済を牽引する企業を紹介する動画を作成し、「30歳になったら静岡県!」、「ふじのくにパスポート」などを通じ、積極的な発信に取り組んでおり、今後もコンテンツの拡充等により、本県の魅力を発信していくとともに、新規フォロワーの獲得を図っていく。

- 医療分野はコロナ禍を契機に更に需要が高まる産業であり、医薬品・医療機器合計生産額全国1位である強みを更に推進するため、関連産業の集積や他産業との連携など、複合的に強化することが必要である。

2020年度にマスク等の生産設備導入の助成を行った企業10社は、いずれも異業種からの参入であり、医療機器開発についても、17社を採択し、PCR検査と同程度の精度を確保しつつ、結果を短時間に判定できる安価な検査装置の開発などに取り組んでいる。

2021年度は、ファルマバレープロジェクトを中核に、医薬品・医療機器の合計生産金額が10年連続で全国第1位という本県の「場の力」を活かし、光・電子技術関連産業や「はままつ医工連携拠点」など、他のプロジェクトとの連携を強化し、更なる医療健康産業の集積を促進するとともに、県内企業の初期投資や研究開発・事業化を支援し、本県のリーディング産業として医療健康産業の育成を加速化させ、医療機器等の国産化、輸出産業化を目指していく。

<2021年度新規取組>

医療機器産業基盤強化推進事業費助成（拡充）